

ひとりでも悩まず相談 地域で支える子育て



中央は大山こまをモチーフにした伊勢原市公式イメージキャラクターの「クルリン」

伊勢原市では次世代育成支援施策「子育てサポーターの育成・活動」など、市と市民が一丸となり地域ぐるみの子育てに取り組んでいる。高山松太郎伊勢原市長と全国共済神奈川県生活協同組合(全国共済)の上関康樹理事長、よこはまチャイルドラインの徳丸のり子代表理事が、現在の子育て環境やこれからの支援策について話し合った。※文中敬称略

高山 松太郎 伊勢原市長／上関 康樹 全国共済理事長
徳丸 のり子 NPO 法人よこはまチャイルドライン代表理事
【司会】西郷 公子 神奈川新聞社県西総局長

職を配置し、家庭問題や子どもの相談にも対応しています。

児童虐待予防のための研修、普及啓発を行っています。その中の一つとして、高校生を対象とした講座では演劇と子育て体験を、幼稚園・保育所・小学校の職員には紙芝居を用いて虐待防止の初期対応の理解を促す講座を実施しています。

上関 伊勢原市の施策の中に「暮らし力」「安心力」がありますが、市長のお言葉からお子さんに重点を置かれた取り組みだと分かりました。また、通常は定年となる70代の方まで子育てサポーターとして活動されているのも素晴らしいことで、サポートされる側も嬉しいと思います。

徳丸 子育てには、親以外の大人たちとの関わりも必要なので、この取り組みが全国に広がっていくことを願います。

徳丸 子育てには、親以外の大人たちとの関わりも必要なので、この取り組みが全国に広がっていくことを願います。

みんなで助けあい みんな支えあう

ー全国共済の制度についてお聞かせください

上関 全国共済は「助けあいの心」から生まれた保障の共済で、全国39都道府県グループの一つで非営利団体として事業を展開しています。

万一の備えとして、0歳から85歳までいくつもの年齢層で区切り、その中では男女の区別なく「一律掛金・一律保障」であることが特長です。満18歳から満64歳の方が申し込める保障には、入院・

年型「熟年入院型」は満65歳から満69歳の方が申し込める保障です。全国共済は非営利団体なので、お預かりした掛金は組合員の皆様の保障や福利厚生にあてることが基本ですが、手数料である事業

利益の一部を利益還元として、病気を患う子や養護施設の子など、一番弱い立場の子たちを社会貢献として、応援できればと考え、養護施設の子どもたちが参加するスポーツ大会への協賛をしています。また、県内にある31の小児病棟に計310冊の本の寄贈もさせていただき、少しでも子どもたちの活力につながればと思います。

ー子どもの電話相談「チャイルドライン」についてお聞かせください

親も先生もSOS 地域で支える体制

ー伊勢原市の今後の取り組みについてお聞かせください

高山 近は子育てに関する相談相手がないという問題点があり、それに伴い学校の先生の負担が増えたりなど、大人が悩みを抱えてしまっています。

そこで伊勢原市では「要保護児童対策」の他にも文部科学省からの委託を受け、不登校や家庭に困難を抱える子どもたちに対して地域の家庭支援チームを立ち上げまし



徳丸 のり子
よこはまチャイルドライン代表理事

子ども専用のホットライン

徳丸 子どもはたくさん大人に囲まれて育つべきだと思います。現状は両親と先生しかいないケースがほとんどです。そこで、大人に相談できる子ども専用のホットライン、チャイルドラインが必要だと思います。18歳までの子どもであれば誰でも利用できるフリーダイヤルで週3回ご利用いただけます。

子どもたちに配るチャイルドラインカードの発行には、全国共済の多大なる支援もあり、おかげで全県に配布できるようになりました。

上関 昔は近所に子どもがたくさんいて、その輪の中でいろいろ学んでいましたが、少子化ですっかり環境が変わってしまいました。また、ネットやLINEの普及により見えないいじめが発生するなど、新たな問題も出てきています。そのため、子どもを正しくリードしてあげる大人の存在がますます重要になってきているので、大人も悩まない環境づくりを目指す、その取り組みが全国に広まることを期待します。

お年寄りから知識を 子どもからは元気を

ー最後にメッセージをお願いいたします

高山 最近の子どもは「読む・書く・話す」力が弱くなっているといわれます。この解決策は、地域の年配の方々に力を借りることです。子どもはお年寄りから知識や経験を学び、お年寄りは子どもから元気なパワーをもらいます。そんな関係を築くことができれば、子育てから地域の活性化にもつながるので、ぜひ取り組みたいと思います。

徳丸 学校を通して直接子どもたちにチャイルドカードを配布させていただきます。

上関 私どもが協賛させていたれている養護施設の子どもたちが参加するスポーツ大会では、一見すると他の子たちとまったく変わりませんが、一つ違うことは親からの声援がありません。それでも、子どもたちは一生懸命プレイして、挨拶もしっかりします。その姿を見ると、胸にこみ上げる思いがあり、今後支援できればと思います。

地域で支えあう実感



高山 松太郎
伊勢原市長

地域の連携強化で すばやい相談対応

ー子育て支援に関して、伊勢原市の現状をお聞かせください

高山 核家族化により、子育てに関する悩み相談の相手がない問題などを解消するために、地域での子育て支援の協力者として、活躍いただくことを目的に「子育てサポーター養成講座」を実施しています。現在活動中の方は108名。30代か

ら70代までの方々がそれぞれの持ち味を生かして活動されていて、地域で支えあう実感が得られています。そして、子どもが安心して暮らせる体制を目指して「要保護児童対策」です。保護者のない児童や保護者に監護させることが不適当な児童の適切な保護を図るため地域の連携強化に努めています。市役

弱い立場の子を応援



上関 康樹
全国共済理事長

弱い立場の子を応援